

【イス de エクササイズ】

上肢・下肢の機能向上や筋力向上、バランス機能、姿勢保持能力の向上を目的に、6パターンのエクササイズで構成。



マシンを使わないリハビリ

【こちヨガ】

腹式呼吸を取り入れたヨガ風のストレッチ。全身の血行をよくするプログラムで、誰にでも簡単にできる工夫されている。



全身の血行をよくする
ヨガブロック、壁に寄りかかるなど、ゆったりとした呼吸を行い、ココロもカラダもリラックス。



歩行に必要な6つの筋トレ

セラバンド・ゴムボールなどを使用して週替わりで各部位の筋力を強化。歩行時のふらつき、立ち座り動作、物を取る・つかむといった日常生活動作を改善。



最前線インタビュー

イー・ライフ・グループ
代表取締役
小川義行氏

私たちにとってのレクリエーションとは

介護事業の目的の中心は健康維持・改善 ターゲットの利用者に必要なサービスを

イー・ライフ・グループ株式会社は、脳血管疾患のある方などを中心に機能改善に特化したリハビリデイサービス「nagomi」を全国で展開しています。介護報酬の単価引き下げのなか、今後どのような運営方針で、どのようなサービスを提供していくのか、代表取締役の小川義行さんにかがいました。

文原 智子 写真/伏見早織 本社写真部

きつかけは診療報酬の改定
機能改善に特化したデイサービス

イー・ライフ・グループ株式会社は介護事業、障害福祉事業、コンサルティング事業などを日本、そしてアジアで展開。2006年に立ち上げた「nagomi」は脳血管疾患、慢性疾患、整形疾患の方

が中心の機能改善に特化したデイサービスです。サービスはインストラクターの指導の下に行う機能訓練のグループレッススだけ。入浴やレクリエーション、昼食といったメニューがないのが特徴です。

以前は同社も幅広い利用者に向けて一般的なデイサービスを行っていました。対象を絞り、サービスを特化したのは06年の診療報酬改定がきっかけでした。「脳血管疾患の治療が大幅に短縮され、

その後のリハビリが介護業界に任せられることになったのを受けて、この方たちに対象を絞ることにしました」と語るのは同社代表の小川義行さんです。

レッスンメニューは顧問理学療法士とともに作り上げ、介護予防の研究開発機関「つくばウエルネスリサーチ」に依頼し、科学的に機能改善効果のエビデンスを取りました。

「介護の理念の中心にあるのは利用者の健康維持・改善。これを利用者の主観的印象ではなく、客観的数値として実現できるように力を注いできました」

レッスンメニューを実現できるよう、ヒト、ハコも一新して「nagomi」を立ち上げたのです。

現在、nagomiは全国に156店舗を展開しています。

科学的トレーニングで
約8割の利用者に改善効果が

利用者の平均年齢は70歳、男女比率は4対6。一般のデイサービスに比べ利用者の平均年齢が15歳ほど若く、かつ男性の比率が高いのが大きな特徴です。

「みなさんがnagomiに通う目的は楽しい時間を過ごすためではなく、機能の維持・改善のためなのです。お孫さんと元気に遊ぶため、あるいは友人と旅行に行くために通い続ける意識の高い方が多いですね」

レッスンは25分のティータイムを入れて180分間。腹式呼吸を取り入れたヨガ風のストレッチ体操「こちヨガ」、歩行に必要な6つの筋力トレーニングを行う「イスdeエクササイズ」、そして自宅

ないと思っています」

社会保障費が増大するなか、
介護保険への依存度を低くする

15年の介護保険制度改正で介護報酬の単価が引き下げられました。しかし、nagomiではこの影響をほとんど受けていないそうです。

「利益は客数×客単価で決まりますが、うちは一人の利用者の利用回数ではなく、利用者数全体を増やす努力をしてきたからです」とその理由を説明します。

社会保障費が増大するなか、今後も介護報酬単価の引き下げや利用者の負担額の増額が予想されます。介護施設も利用者も介護保険への依存度を低くしていくことが大切ではないかと小川さんは前を見つめます。

「大前提として、デイサービスは利用者の健康維持・改善を実現するサービスを提供しなくてはなりません。それも対象に合わせ客観的に効果が認められるサービスが求められていくと思います」

DATA

1999年の創業。2006年10月リハビリデイサービスnagomi 1号店を開業。2008年9月より直営店出店からわずか3年半で全国100店舗強のチェーンに成長。ステークホルダーとの「共創」×「ヒト」「ハコ」「サービス」の自己完結を組み合わせた独自のビジネスモデルを用いて、リハビリデイサービスnagomi事業、バリアフリー住宅及び医療・介護施設の設計・施工事業を全国に展開。



イー・ライフ・グループ
代表取締役
小川義行氏
YOSHIYUKI OGAWA

1971年生まれ。「世の中に必要とされる会社」を自ら創りたいと1999年創業。バリアフリーの必要性を感じたこと・母親の介護・公的介護保険制度施行の経緯から、創業以来「健康的なシニアライフの創造」を主眼に、介護保険適用フィットネス型デイ「リハビリデイサービスnagomi」の業態開発にたどり着く。「グローバルソーシャルベンチャー」としての地位を確立し、シニア世代のライフタイムバリュー（顧客生涯価値）向上に努めるため、事業のグローバル化、グローバル化を決意し現在に至る。